

評価項目のスコア及びその判断基準の比較

		大		中		小		○牛豚フルオロキノロンNo. 2				○豚ツラスロマイシンNo. 4				○牛ペリロマイシンNo. 5				○鶏フルオロキノロンNo. 11				○牛ガミスロマイシンNo. 13			
評価段階	判断項目	腸管出血性大腸菌		サルモネラ		カンピロバクター		カンピロバクター		カンピロバクター		サルモネラ		カンピロバクター		大腸菌		カンピロバクター		大腸菌		カンピロバクター		カンピロバクター			
		判断根拠	評価結果	判断根拠	評価結果	判断根拠	評価結果	判断根拠	評価結果	判断根拠	評価結果	判断根拠	評価結果	判断根拠	評価結果	判断根拠	評価結果	判断根拠	評価結果	判断根拠	評価結果	判断根拠	評価結果	判断根拠	評価結果		
発生	遺伝的特性	中: 伝達性耐性遺伝子の存在	低度 (1)	中: 伝達性耐性遺伝子の存在	低度 (1)	中: 1か所の変異で耐性獲得 伝達性耐性遺伝子の存在	中等度 (2)	中: 一般的な耐性機序は染色体突然変異耐性株で伝達によるerm遺伝子獲得の報告は無く、erm遺伝子保有菌の報告まれ	中等度 (2)	中: 一般的な耐性機序は染色体突然変異耐性株で伝達によるerm遺伝子獲得の報告は無く、erm遺伝子保有菌の報告まれ	中等度 (2)	中: 伝達性耐性遺伝子の存在	低度 (1)	大: 1か所の変異で耐性獲得 投与で速やかに耐性菌が選択	中等度 (2)	中: 伝達性耐性遺伝子の存在	中等度 (2)	中: 伝達性耐性遺伝子の存在	低度 (1)	中: 一般的な耐性機序は染色体突然変異耐性株で伝達によるerm遺伝子獲得の報告は無く、erm遺伝子保有菌の報告まれ	中等度 (2)	中: 一般的な耐性機序は染色体突然変異耐性株で伝達によるerm遺伝子獲得の報告は無く、erm遺伝子保有菌の報告まれ	低度 (1)	中: 一般的な耐性機序は染色体突然変異耐性株で伝達によるerm遺伝子獲得の報告は無く、erm遺伝子保有菌の報告まれ	低度 (1)		
	耐性率及び感受性	小: 一般大腸菌の耐性率や感受性に大きな変動はない(耐性率0~1.5%(牛)、0~4.1%(豚) 腸管出血性大腸菌に耐性みられない	低度 (1)	小: 耐性率低く、感受性は概ね維持(耐性率0%)	低度 (1)	中: 耐性率高く(0~30.3%牛由来C.jejuni)、0~30.3%(豚由来C.coli)、豚で増加傾向	中等度 (2)	中: 耐性率は比較的高く推移(44~62%)	中等度 (2)	小: 牛由来C.jejuniではエリスロマイシン耐性株は分離されないが、耐性率の上昇はない	低度 (1)	小: 感受性は概ね維持(耐性率0%)	低度 (1)	中: 耐性率高く、増加傾向(2007年まで)、2008年以降大きな変動なし	中等度 (2)	中: 耐性率高く、増加傾向(2007年まで)、2008年以降大きな変動なし	中等度 (2)	中: 健康鶏は10% 病鶏由来では20%以上	低度 (1)	小: 牛由来C.jejuniではエリスロマイシン耐性株は分離されないが、耐性率の上昇はない	中等度 (2)	小: 牛由来C.jejuniではエリスロマイシン耐性株は分離されないが、耐性率の上昇はない	低度 (1)	中: 健康鶏は10% 病鶏由来では20%以上	中等度 (2)		
	その他要因	小: 懸念されるものがない	低度 (1)	小: 懸念されるものがない	低度 (1)	小: 懸念されるものがない	中等度 (2)	小: 懸念されるものがない	中等度 (2)	小: 懸念されるものがない	低度 (1)	小: 懸念されるものがない	低度 (1)	中: フルオロキノロンの流通量の約割が鶏用フルオロキノロン耐性獲得株は鶏体内での定着性上昇、選択圧のない状態で長期に維持	中等度 (2)	中: フルオロキノロンの流通量の約割が鶏用フルオロキノロン耐性獲得株は鶏体内での定着性上昇、選択圧のない状態で長期に維持	中等度 (2)	中: 病鶏で使用実態を反映している可能性	低度 (1)	小: 懸念されるものがない	中等度 (2)	小: 懸念されるものがない	低度 (1)	中: 病鶏で使用実態を反映している可能性	中等度 (2)		

		○牛豚セフトアルNo. 15		○牛豚フルオロキノロンNo. 16		○牛豚ツラスロマイシンNo. 17		○豚鶏バージニアマイシンNo. 19		○牛豚セフキノンNo. 20									
評価段階	判断項目	サルモネラ		大腸菌		腸管出血性大腸菌		サルモネラ		カンピロバクター		カンピロバクター		腸球菌		サルモネラ		大腸菌	
		判断根拠	評価結果	判断根拠	評価結果	判断根拠	評価結果	判断根拠	評価結果	判断根拠	評価結果	判断根拠	評価結果	判断根拠	評価結果	判断根拠	評価結果	判断根拠	評価結果
発生	遺伝的特性	中: 伝達性耐性遺伝子の存在	低度 (1)	中: 伝達性耐性遺伝子の存在	低度 (1)	中: 伝達性耐性遺伝子の存在	低度 (1)	大: 1か所の変異で耐性獲得 伝達性耐性遺伝子の存在 投与で速やかに耐性菌が選択	中等度 (2)	中: 一般的な耐性機序は染色体突然変異erm遺伝子保有菌の報告まれ ermB遺伝子は染色体上のMDRGIに存在し、伝達可能	低度 (1)	中: 伝達性耐性遺伝子の存在	中等度 (2)	中: 伝達性耐性遺伝子の存在	低度 (1)	中: 伝達性耐性遺伝子の存在	低度 (1)	中: 伝達性耐性遺伝子の存在	低度 (1)
	耐性率及び感受性	小: 耐性菌があるが、感受性に大きな変動なく、維持 耐性率0~10%(牛)、0~1.7%(豚)	低度 (1)	小: 感受性に大きな変動なし 耐性率0~1.5%(牛)、0~1.5%(豚)	低度 (1)	小: 一般大腸菌の耐性率や感受性に大きな変動はない(耐性率0~1.5%(牛)、0~4.1%(豚) 腸管出血性大腸菌に耐性みられない	低度 (1)	中: 耐性率高く(8.8~42.4%牛由来C.jejuni)、21.3~55.1%(豚由来C.coli)、増加傾向	中等度 (2)	小: 牛由来C.jejuniではエリスロマイシン耐性株は分離されないが、耐性率の上昇はない	低度 (1)	小: 低感受性菌が検出(0~21%)、2007年以降は低いレベル	低度 (1)	小: 耐性菌があるが、感受性に大きな変動なく、維持 耐性率0~10%(牛)、0~1.7%(豚)	低度 (1)	小: 感受性に大きな変動なし 耐性率0~2.0%(牛)、0~2.8%(豚)	低度 (1)	小: 感受性に大きな変動なし 耐性率0~2.0%(牛)、0~2.8%(豚)	低度 (1)
	その他要因	小: 懸念されるものがない	低度 (1)	小: 懸念されるものがない	低度 (1)	小: 懸念されるものがない	低度 (1)	小: 懸念されるものがない	中等度 (2)	小: 懸念されるものがない	低度 (1)	中: 飼料添加物として使用	低度 (1)	小: 懸念されるものがない	低度 (1)	小: 懸念されるものがない	低度 (1)	小: 懸念されるものがない	低度 (1)

		○牛豚鶏コリスチン(第1版)No. 21		○牛豚鶏マクロライド系No. 22		○牛豚鶏マクロライド系No. 24		○牛豚鶏テトラサイクリン系No. 25		○牛豚鶏マクロライド系(第2版)No. 26		○牛豚鶏マクロライド系(第2版)No. 30		○牛豚鶏ST合剤No. 32						
評価段階	判断項目	大腸菌		カンピロバクター		カンピロバクター		黄色ブドウ球菌		カンピロバクター		大腸菌		サルモネラ		大腸菌		黄色ブドウ球菌		
		判断根拠	評価結果	判断根拠	評価結果	判断根拠	評価結果	判断根拠	評価結果	判断根拠	評価結果	判断根拠	評価結果	判断根拠	評価結果	判断根拠	評価結果	判断根拠	評価結果	
発生	遺伝的特性	中: <i>mor-1</i> の存在	中等度 (2)	中: 一般的な耐性機序は染色体突然変異erm遺伝子保有菌の報告まれ ermB遺伝子は染色体上のMDRGIに存在し、伝達可能	中等度 (2)	中: 一般的な耐性機序は染色体突然変異erm遺伝子保有菌の報告まれ ermB遺伝子は染色体上のMDRGIに存在し、伝達可能	中等度 (2)	中: 伝達性耐性遺伝子多剤耐性ST398国内報告少ない	中等度 (2)	中: 一般的な耐性機序は染色体突然変異erm遺伝子保有菌の報告まれ ermB遺伝子は染色体上のMDRGIに存在し、伝達可能	中等度 (2)	中: 一般的な耐性機序は染色体突然変異erm遺伝子保有菌の報告まれ ermB遺伝子は染色体上のMDRGIに存在し、伝達可能	中等度 (2)	中: mor保有率低い 適応負担あり	低度 (1)	中: mor保有率低い 適応負担あり	低度 (1)	中: 伝達性耐性遺伝子の存在 使用に伴うS、T耐性選択	中等度 (2)	中: 伝達性耐性遺伝子の存在 使用に伴うS、T耐性選択
	耐性率及び感受性	中: 健康家畜1~4.7%。 病鶏由来では2~40%。	中等度 (2)	中: 耐性率は比較的高く推移(41~62%)	中等度 (2)	小: 牛由来C.jejuniでエリスロマイシン耐性はほとんどみられない 中: 豚由来C.coliの耐性率は比較的高い(34~53.8%)	中等度 (2)	小: TC耐性傾向不明 MRSA分離率低 ST398の分離報告はわずか	中等度 (2)	中: 牛由来C.jejuniでエリスロマイシン耐性はほとんどみられない 中: 豚由来C.coliの耐性率は比較的高い(34~53.8%)	中等度 (2)	小: 健康家畜1.1~4.6% リスク管理による使用量減により耐性率が上昇する可能性低い	低度 (1)	小: 健康家畜0~16% リスク管理による使用量減により耐性率が上昇する可能性低い	低度 (1)	中: 健康牛で2~5.3%、 健康豚・健康鶏で23~35%	中等度 (2)	中: ST耐性率不明 LA-MRSAのT耐性90%以上 ST398分離率は約3~17%	中等度 (2)	中: ST耐性率不明 LA-MRSAのT耐性90%以上 ST398分離率は約3~17%
	その他要因	中: 飼料も使用 使用量とmor陽性の関連	中等度 (2)	小: 懸念されるものがない	中等度 (2)	小: 牛由来C.jejuniでエリスロマイシン耐性はほとんどみられない 中: 豚由来C.coliの耐性率は比較的高い(34~53.8%)	中等度 (2)	中: 牛由来C.jejuniでエリスロマイシン耐性はほとんどみられない 中: 豚由来C.coliの耐性率は比較的高い(34~53.8%)	中等度 (2)	小: 牛由来C.jejuniでエリスロマイシン耐性はほとんどみられない 中: 豚由来C.coliの耐性率は比較的高い(34~53.8%)	中等度 (2)	小: 飼料の取消し 使用量が概ね半減	低度 (1)	小: 飼料の取消し 使用量が概ね半減	低度 (1)	中: 健康牛で2~5.3%、 健康豚・健康鶏で23~35%	中等度 (2)	中: 健康牛で2~5.3%、 健康豚・健康鶏で23~35%	中等度 (2)	小: 使用量多い(約50~76t/年) 使用量と耐性率の関連有効菌種ではない

○牛豚フルオロキノロンNo. 2			○豚ツラソロマイシンNo. 4			○牛ピルリマイシンNo. 5			○鶏フルオロキノロンNo. 11			○牛ガミソロマイシンNo. 13		
特定したハザード	腸管出血性大腸菌	サルモネラ	カンピロバクター	カンピロバクター	カンピロバクター	カンピロバクター	カンピロバクター	カンピロバクター	カンピロバクター	カンピロバクター	大腸菌	カンピロバクター	カンピロバクター	
生物学的特性	中: 牛及び豚の腸内在菌、食肉中で生存可能	中: 牛及び豚の腸内在菌、食肉中で生存可能	中: 牛及び豚の腸内在菌、食肉中で生存可能	中: 豚の腸内在菌、食肉中で生存可能	中: 豚の腸内在菌、食肉中で生存可能	中: 豚の腸内在菌、食肉中で生存可能	中: 豚の腸内在菌、食肉中で生存可能	中: 豚の腸内在菌、食肉中で生存可能	中: 豚の腸内在菌、食肉中で生存可能	中: 豚の腸内在菌、食肉中で生存可能	小: 食肉中で生存可能 ヒトの腸内細菌叢として定着する可能性は低い	小: 牛の腸内在菌、食肉中で生存可能、冷蔵及び冷凍保存下で徐々に死滅	小: 牛の腸内在菌、食肉中で生存可能、冷蔵及び冷凍保存下で徐々に死滅	
食品汚染状況	小: 牛肉及び豚肉の汚染は少なく(0~0.5%)、それらのハザードによる汚染はさらに少ない(耐性率0~2.8%)	小: 牛肉及び豚肉の汚染は少ない(0~5.1%)	小: 牛肉及び豚肉の汚染は少ない(0%)	小: 牛肉及び豚肉の汚染は少ない(0%)	小: 豚肉の汚染は少なく、それらのハザードによる汚染はさらに少ない	小: 牛肉の汚染は少なく、それらのハザードによる汚染はさらに少ない	小: 牛肉の汚染は少なく、それらのハザードによる汚染はさらに少ない	小: 牛肉の汚染は少なく、それらのハザードによる汚染はさらに少ない	中: 陽性率高い(30~50%) 耐性率は低い(2%)	大: 食肉における陽性率が高く(17~59%)、フルオロキノロン耐性菌の割合が高い(41%)、食肉処理場での検出率がサルモネラ(0~11.4%)より高い	中: 陽性率高い(80%) 耐性率は高い(10%)	小: 牛肉の汚染は少なく、それらのハザードによる汚染はさらに少ない	無視(0)	
その他要因	小: 懸念されるものがない	小: 懸念されるものがない	小: 懸念されるものがない	小: 懸念されるものがない	小: 懸念されるものがない	小: 懸念されるものがない	小: 懸念されるものがない	小: 懸念されるものがない	小: 懸念されるものがない	中: 鶏由来食品はカンピロバクター感染症の原因食品として割合大、加熱不十分な鶏肉の摂取との関連が懸念	小: 食肉一腸内一医療環境汚染の可能性低い	小: 懸念されるものがない	小: 懸念されるものがない	

○牛豚セフトオフルNo. 15			○牛豚フルオロキノロンNo. 16			○牛ツラソロマイシンNo. 17			○豚鶏バージニアマイシンNo. 19			○牛豚セフキノムNo. 20		
特定したハザード	サルモネラ	大腸菌	腸管出血性大腸菌	サルモネラ	カンピロバクター	カンピロバクター	カンピロバクター	腸球菌	サルモネラ	大腸菌	カンピロバクター	カンピロバクター	大腸菌	
生物学的特性	中: 牛及び豚の腸内在菌、食肉中で生存可能	中: 牛及び豚の腸内在菌、食肉中で生存可能	中: 牛及び豚の腸内在菌、食肉中で生存可能	中: 牛及び豚の腸内在菌、食肉中で生存可能	中: 牛及び豚の腸内在菌、食肉中で生存可能	中: 牛及び豚の腸内在菌、食肉中で生存可能	中: 牛及び豚の腸内在菌、食肉中で生存可能	中: 豚及び鶏の腸内在菌、食肉中で生存可能、冷蔵及び冷凍保存下で徐々に死滅	中: 牛及び豚の腸内在菌、食肉中で生存可能	中: 牛及び豚の腸内在菌、食肉中で生存可能	中: 牛及び豚の腸内在菌、食肉中で生存可能	中: 牛及び豚の腸内在菌、食肉中で生存可能	中: 牛及び豚の腸内在菌、食肉中で生存可能	
食品汚染状況	小: 牛肉及び豚肉の汚染は少なく(0~4.7%)、それらのハザードによる汚染はさらに少ない	小: 陽性率高い(58~88%) 耐性率は低い(0%)	小: 牛肉及び豚肉の汚染は少なく(0~0.9%)、それらのハザードによる汚染はさらに少ない(耐性率0~2.8%)	小: 牛肉及び豚肉の汚染は少なく(0~5.1%)、それらのハザードによる汚染はさらに少ない	小: 牛肉及び豚肉の汚染は少なく(0~0.3%)、2013年の肝臓由来カンピロバクターの耐性率は高い(32.3~80.0%)	小: 牛肉の汚染は少なく、それらのハザードによる汚染はさらに少ない	小: 牛肉の汚染は少なく、それらのハザードによる汚染はさらに少ない	中: 陽性率高く(80.84~15%)、市販鶏肉のバージニアマイシン耐性菌の割合が高い(77%)	小: 牛肉及び豚肉の汚染は少なく(0~4.7%)、それらのハザードによる汚染はさらに少ない	小: 陽性率高い(58~88%) 耐性率は低い(0~5.8%)	小: 牛肉及び豚肉の汚染は少なく(0~0.3%)、2013年の肝臓由来カンピロバクターの耐性率は高い(32.3~80.0%)	小: 牛肉の汚染は少なく、それらのハザードによる汚染はさらに少ない	小: 陽性率高い(58~88%) 耐性率は低い(0~5.8%)	
その他要因	小: 懸念されるものがない	小: 懸念されるものがない	小: 懸念されるものがない	小: 懸念されるものがない	小: 懸念されるものがない	小: 懸念されるものがない	小: 懸念されるものがない	小: 食肉摂取による耐性菌のヒト腸内定着や、医療環境の汚染、感染症の原因となる可能性低い	小: 懸念されるものがない	小: 懸念されるものがない	小: 懸念されるものがない	小: 懸念されるものがない	小: 懸念されるものがない	

○牛豚鶏コリスチン(第1版)No. 21			○牛豚鶏マクロライド系No. 24			○牛豚鶏テトラサイクリン系No. 25			○牛豚鶏マクロライド系(第2版)No. 26			○牛豚鶏硫酸コリスチン(第2版)No. 30			○牛豚鶏ST合剤No. 32		
特定したハザード	大腸菌	カンピロバクター	カンピロバクター	黄色ブドウ球菌	カンピロバクター	カンピロバクター	カンピロバクター	大腸菌	サルモネラ	大腸菌	大腸菌	黄色ブドウ球菌	黄色ブドウ球菌				
生物学的特性	中: 食肉中で生存可能 <i>mer-1</i> の水平伝播	中: 豚の腸内在菌、食肉中で生存可能	小: 牛の腸内在菌、食肉中で生存可能、冷蔵及び冷凍保存下で徐々に死滅 中: 豚の腸内在菌、食肉中で生存可能	小: 食品一腸管定着の可能性低い LA-MRSAはヒトへの定着性低下	小: 豚の腸内在菌、食肉中で生存可能、冷蔵及び冷凍保存下で徐々に死滅 中: 豚の腸内在菌、食肉中で生存可能	小: 豚の腸内在菌、食肉中で生存可能、冷蔵及び冷凍保存下で徐々に死滅	中: 食肉中で生存可能 <i>mer</i> の水平伝播	中: 食肉中で生存可能 <i>mer</i> の水平伝播	中: 食肉中で生存可能 <i>mer</i> の水平伝播	小: 食肉中で生存可能 食品からヒトが曝露される大腸菌のうち、尿路感染症の原因菌となるものはごく一部	小: 食肉中で生存可能 食品からヒトが曝露される大腸菌のうち、尿路感染症の原因菌となるものはごく一部	小: 食品一腸管定着の可能性低い LA-MRSAはヒトへの定着性低下	小: 食品一腸管定着の可能性低い LA-MRSAはヒトへの定着性低下				
食品汚染状況	小: 陽性率高い(80%) 耐性率はほぼ検出なし	小: 豚肉からの汚染は少なく、それらのハザードによる汚染はさらに少ない 豚肝臓の <i>C. coli</i> 陽性率は高く(14.4%)が、耐性率も高い(44.4%)が、 <i>C. jejuni</i> 陽性率低く(0.6%)、耐性率なし	小: 豚肉からの <i>C. jejuni</i> の分離率高い(31.7%)が、耐性率は極めて低い(0~1.1%)、 <i>C. coli</i> の分離率高い(4.4%)が、耐性率高い(28.6~33.3%) 牛肝臓からの <i>C. jejuni</i> (分離率19.0%)、豚肝臓からの <i>C. coli</i> (14.4%)の耐性率は2.0%及び44.4%	小: 食肉から分離 耐性率は少ない MRSAの検出率低い 食品のMRSAは主にヒト由来汚染	小: 豚肉からの <i>C. jejuni</i> の分離率高い(31.7~34.4%)が、耐性率は極めて低い(0~1.1%)、 <i>C. coli</i> の分離率高い(3.1~4.4%)が、耐性率高い(28.6~33.3%) 牛肝臓からの <i>C. jejuni</i> (分離率19.0%)、豚肝臓からの <i>C. coli</i> (14.4%)の耐性率は2.0%及び44.4%	小: 豚肉からの <i>C. jejuni</i> の分離率高い(31.7~34.4%)が、耐性率は極めて低い(0~1.1%)、 <i>C. coli</i> の分離率高い(3.1~4.4%)が、耐性率高い(28.6~33.3%) 牛肝臓からの <i>C. jejuni</i> (分離率19.0%)、豚肝臓からの <i>C. coli</i> (14.4%)の耐性率は2.0%及び44.4%	小: 牛肉及び豚肉の汚染は少なく(10%以下)、耐性率、 <i>mer+</i> 株はほぼなし	小: 牛肉及び豚肉の汚染は少なく(10%以下)、耐性率、 <i>mer+</i> 株はほぼなし	小: 牛肉及び豚肉の汚染は少なく(10%以下)、耐性率、 <i>mer+</i> 株はほぼなし	中: 陽性率高い(60~80%) 耐性率 約20~30%	中: 陽性率高い(60~80%) 耐性率 約20~30%	中: 食肉から分離 ST耐性率不明 MRSAの検出率低い 食品のMRSAは主にヒト由来汚染	中: 食肉から分離 ST耐性率不明 MRSAの検出率低い 食品のMRSAは主にヒト由来汚染				
その他要因	小: 食肉一腸内一医療環境汚染の可能性低い	小: 懸念されるものがない	比較的小さい菌数で発症するため、二次汚染に注意が必要 小: 牛豚の肝臓の生食の提供は禁止 中: 鶏肉は加熱用を生食用として流通・提供しないことを通知。	小: 一般的な食中毒対策で予防可能	比較的小さい菌数で発症するため、二次汚染に注意が必要 小: 牛豚の肝臓の生食の提供は禁止 中: 鶏肉は加熱用を生食用として流通・提供しないことを通知。	比較的小さい菌数で発症するため、二次汚染に注意が必要 小: 牛豚の肝臓の生食の提供は禁止 中: 鶏肉は加熱用を生食用として流通・提供しないことを通知。	小: 食肉一腸内一医療環境汚染の可能性低い	小: 懸念されるものがない	小: 懸念なし	小: 懸念なし	小: 懸念なし	小: 一般的な食中毒対策で予防可能	小: 一般的な食中毒対策で予防可能				

○牛豚フルオロキノロンNo. 2			○豚ツラソロマイシンNo. 4			○牛ピルリマイシンNo. 5			○鶏フルオロキノロンNo. 11			○牛ガミスロマイシンNo. 13		
特定したハザード	腸管出血性大腸菌	サルモネラ	カンピロバクター	カンピロバクター	カンピロバクター	サルモネラ	カンピロバクター	大腸菌	カンピロバクター					
影響	I かつ推奨薬	大: I かつ推奨薬	大: I かつ推奨薬	中: I だが推奨薬でない	大: I かつ推奨薬	大: I かつ推奨薬	中: I だが推奨薬でない	大: I かつ推奨薬	大: I かつ推奨薬					
	疾病の重篤性	大: 発生件数多く、重篤化する可能性がある	大: 発生件数多く、重篤化する可能性がある	中: 発生件数多いが、重篤化する可能性が大きいとは言えない	中: 発生件数多いが、重篤化する可能性が大きいとは言えない	中: 発生件数多いが、重篤化する可能性が大きいとは言えない	中: 発生件数多いが、重篤化する可能性が大きいとは言えない	中: 重篤化する可能性が大きいとは言えない	中: 重篤化する可能性が大きいとは言えない					
	その他要因	小: 系統の異なる代替薬があり、医療分野における耐性率も低い	小: 系統の異なる代替薬あり	中: 医療分野での耐性率が高い	小: 医療分野での耐性率フルオロキノロンより低い代替薬あり	小: 医療分野での耐性率フルオロキノロンより低い代替薬あり	小: 系統の異なる代替薬あり	中: 医療分野での耐性率が高い	中: 代替薬あり感受性確認前に使用された場合、重篤化する可能性					
	高度 (3)	高度 (3)	中等度 (2)	中等度 (2)	中等度 (2)	高度 (3)	中等度 (2)	中等度 (2)	中等度 (2)					

○牛豚セフトオフルNo. 15			○牛豚フルオロキノロンNo. 16			○牛ツラソロマイシンNo. 17			○豚鶏バージニアマイシンNo. 19			○牛豚セフキノムNo. 20		
特定したハザード	サルモネラ	大腸菌	腸管出血性大腸菌	サルモネラ	カンピロバクター	カンピロバクター	腸球菌	サルモネラ	大腸菌					
影響	I かつ推奨薬	大: I かつ推奨薬	大: I かつ推奨薬(尿路感染症のみ)	大: I かつ推奨薬	大: I だが推奨薬でない	大: I かつ推奨薬	中: I ではないが、推奨薬	大: I かつ推奨薬	大: I かつ推奨薬(尿路感染症のみ)					
	疾病の重篤性	大: 発生件数が多い重篤化する可能性	中: 発生件数は不明重篤化する可能性	大: 発生件数多く、重篤化する可能性がある	中: 発生件数多い重篤化する可能性が大きいとは言えない	中: 発生件数多い重篤化する可能性が大きいとは言えない	中: 発生件数多い重篤化する可能性が大きいとは言えない	大: 発生件数が多い重篤化する可能性	中: 発生件数は不明重篤化する可能性					
	その他要因	小: 系統の異なる代替薬があり、医療分野での耐性率低く維持	中: 代替薬あり家畜の関与は不明だが、ヒトで耐性率が近年上昇	小: 系統の異なる代替薬があり、医療分野における耐性率も低い	小: 医療分野での耐性率が高い	小: 系統の異なる代替薬あり	小: 系統の異なる代替薬あり	小: Q/D製剤の実際の使用頻度は低いと推定、代替薬あり	中: 代替薬あり家畜の関与は不明だが、ヒトで耐性率が近年上昇					
	高度 (3)	中等度 (2)	高度 (3)	高度 (3)	中等度 (2)	中等度 (2)	中等度 (2)	高度 (3)	中等度 (2)					

○牛豚鶏クリスチン(第1版)No. 21			○豚ガミスロマイシンNo. 22			○牛豚鶏マクロライド系No. 24			○牛豚鶏テトラサイクリン系No. 25			○牛豚鶏マクロライド系(第2版)No. 26			○牛豚鶏硫酸クリスチン(第2版)No. 30			○牛豚鶏ST合剤No. 32		
特定したハザード	大腸菌	カンピロバクター	カンピロバクター	黄色ブドウ球菌	カンピロバクター	大腸菌	サルモネラ	大腸菌	黄色ブドウ球菌											
影響	I かつ推奨薬	大: I かつ推奨薬	大: I かつ推奨薬	中: I ではないが、推奨薬	中: I ではないが、推奨薬	大: I かつ推奨薬	中: I だが推奨薬ではない	中: I ではないが、推奨薬	中: I ではないが、推奨薬											
	疾病の重篤性	中: CRE発生件数不明CL耐性獲得で治療難渋化	中: 発生件数多い重篤化する可能性が大きいとは言えない	小: 重篤化する可能性が大きいとは言えない発生件数多いが、マクロライド耐性 <i>C. jejuni</i> による発生件数は少ない	小: 重篤化する可能性が大きいとは言えない発生件数多いが、マクロライド耐性 <i>C. jejuni</i> による発生件数は少ない	中: CRE発生件数不明CL耐性獲得で治療難渋化	大: 重篤化する可能性が大きいとは言えない	小: 重篤化する可能性が大きいとは言えない発生件数多いが、マクロライド耐性 <i>C. jejuni</i> による発生件数は少ない	小: 重篤化する可能性が大きいとは言えない発生件数多いが、マクロライド耐性 <i>C. jejuni</i> による発生件数は少ない											
	その他要因	大: CL使用頻度は低いCRE等が <i>mar</i> 獲得すると代替薬なし	小: 医療分野での耐性率フルオロキノロンより低い代替薬あり	小: 医療分野での耐性率フルオロキノロンより低い代替薬あり	小: MRSAの高MINO耐性率は減少傾向代替薬が存在	中: CL使用頻度は低いCRE等が <i>mar</i> 獲得すると代替薬なしMDRPに <i>mar</i> 伝達しない <i>mar</i> は高度耐性付与しない	中: CRE発生件数不明CL耐性獲得で治療難渋化	大: 重篤化する可能性否定できない	小: 症状多様尿路感染症は腸内定着→泌尿器に上行感染で成立	小: JANISのMRSAの耐性率1%未満尿路MRSAで耐性率19.1%代替薬が存在										
	高度 (3)	中等度 (2)	低度 (1)	低度 (1)	低度 (1)	中等度 (2)	中等度 (2)	低度 (1)	低度 (1)											